



道政報告 2023年9月号



「こどもファスト」は看板ばかり？実効性ある子育て支援策を

関心を集めています。北海道は「暮らしを守る政策」の一環で、子ども支援社会の推進のひとつに「こどもファストトラック」の取り組み推進を

鈴木知事は、今年度の重点政策の基本的な視点として「①暮らしを守る②未来を創る③地域と進める」の三つを挙げています。

少子化に追いつけない道
子ども支援社会の推進



先日行われた第二回定例道議会で、丸山はるみ道議は、子ども政策についての姿勢を質しました。子ども医療費無料化や北海道独自の奨学金の創設を求めるも、鈴木直道知事は「国がやること」と、これまで同様の答弁に終始しました。

丸山道議は、子ども医療費の負担軽減こそ「こどもファストトラック」で取り組むべき

掲げ、道内137の道立施設で妊婦や子ども連れの優先窓口を設置しました。しかしこれは非予算事業で子育て支援にどれほどの効果があるのか、はなはだ疑問です。

丸山道議は「いつまでも国任せにするのではなく、子ども医療費無料化や道独自の奨学金制度など、子育て世帯の要求にこたえる施策に踏み出し、子どもを産み育てられる北海道へ転換すべき」と知事の見解をただしました。

療費無料化や道独自の奨学金創設をこれまで鈴木知事が「全国一律で実施するもの」と繰り返してきたことについて明確な基準があるのかを問い、知事の決断で、実効性ある子育て支援こそ「こどもファストトラック」で行うべきと迫りました。

鈴木知事は「こども基本法では、国はこども施策を総合的に、また地方公共団体は、その地域の状況に応じた施策を策定実施することとされている」と答弁しましたが、このことが道独自の子育て支援策を講じない理由となるのでしょうか。子育て世帯の要求に寄り添う道政を早急に実現させなければなりません。

北海道新幹線

—パセオ閉店による影響—



北海道新幹線工事の影響でパセオと高架下店舗が閉店します。丸山道議は第二回定例道議会で閉店による減収等再オープンまでの減収の積算とJR北海道の補填策について、JR北海道が国から支給されている、5年間で1,718億円の支援金が減収補填に充当されることはないのか質しました。交通企画監が「家賃収入の

年間20億円の減収については、鉄道事業と、不動産事業、ホテル事業といった開発関連事業の拡大により収益確保を図っている。国の支援は設備投資や修繕に対する助成金の交付、出資、経営安定基金の運用益の安定的な確保のための下支え措置に講じられている」と答弁。減収積算については明らかにしませんでした。

路線維持、道民の利便性最優先に知事が先頭に立つべき

JR北海道は再開発と新幹線工事を最優先にし、一方で路線や駅の削減など利便性を後退させています。

丸山道議は知事自らが路線維持を明言し、地方切り捨ての路線廃止や減便など道民負担を押しつけることのないよう、JR北海道に求めるべきと追及しました。交通企画監は「持

続的な鉄道網の確立とJR北海道の経営自立に向けて、JRの徹底した経営努力を前提とした国の実効ある支援と地域としても可能な限りの協力・支援が必要との認識のもと沿線自治体や道において様々な取組を行っている」と、地方へのしわ寄せを是認する答弁です。

海岸線の駐禁区域広げて！

蘭島地域の海水浴場に隣接する海岸線（通称「浜通り」）については一部駐車可能区域になっています。地元の方から「駐車禁止区域より道幅が狭い区域に駐車されると危険。現在駐車可能部分についても駐車禁止区域にしてほしい」との要望が寄せられました。

8月4日には丸山道議、小樽小樽市議、小樽署の担当者が現地に赴き要望を寄せられた地元住民の方々から要望内容について詳しく説明を受けました。

小樽市道でもあり、今後関係者との調整が行われることになりました。



「暮らし最優先」の施策を鈴木知事に要求

～ 2024年度予算編成に関する重点要望～

物価高騰のもとで道民生活と地域経済の困難が鮮明になっていきます。8月22日、日本共産党道議団は党道委員会とともに次期当初予算編成に当たって知事に要請を行い「住民福祉の本旨」が十分に反映される施策とすべきと強く求めました。8分野48項目にわたる重点要求は主に新型コロナウイルス感染症拡大抑制対策



要望書を浜坂真一副知事に手渡す丸山（右端）両道議

の早期打ち出し。マイナ保険証への強制移行に道として国に中止を求め、出産施設増加に向け、目標と緊急対策を実施すること。道民生活を直接支援する道独自の物価高騰対策の実施等です。

丸山道議は「マイナ保険証のために今の保険証をなくすなど現場置き去りも甚だしい。この暑さで熱中症疑いの緊急搬送に立ち会った。意識混濁し、医療機関受付時に暗証番号を求めると実態を理解していない。また、産科医の減少は小樽市でも他人事ではない。早急な支援を求める」と発言しました。

特別委員会

蘭越町、蒸気噴出、道有林への影響、補償等の対策は？



丸山道議は8月2日開催の「水産林務特別委員会」で蘭越町における蒸気の噴出による道有林への影響について質問しました。

水産林務部は蘭越町の道有林における地熱調査工事用地で、調査の支障となる樹木伐採の届け出受理、作業用地の造成許可等を行っています。

丸山道議は「7月21日に現地を視察し、遠目からでもかなりの広さで掘削現場の周辺の森林が茶色く変色しているのを確認した」「塩化水素による樹木への影響、ヒ素による根の損傷

等樹木の状態確認についてどのようにおこなわれるのか」と質問。宮谷道有林課長が「樹木のモニタリングについてはカメラ搭載のドローンによる上空からの撮影による森林変色を確認。今後は蒸気噴出の収束まで、事業者によるドローンによる定期的な森林状況撮影にて状況を把握していく」と答弁。

原状復帰への補償について

丸山道議は今後の道有林の樹木の補償についての考えについても質しました。

寺田森林環境局長は「蒸気の噴出が収束し、安全確認の後、事業者とともに森林の詳細な現況調査を行い道総研林業試験場等の見解も踏まえ、必要な対応について協議をしていく」と答弁しました。

平和願う「おたる運河灯ろう流し」

広島に原爆が落とされて78年目の夏。今年もおたる運河灯ろう流しに参加。



運河は夜になっても観光客がぞろぞろ歩き。灯ろうに目を向ける人々に「1台300円で平和への願いを乗せた灯ろう流しを」と声をかけ何組かに参加を促す。小樽への旅の思い出に平和を願う灯ろう流し。ずっと続けていこう。

一年半目のウクライナ宣伝



毎月24日、小樽駅前で行われているウクライナ侵略反対の宣伝に、侵略が始まって一年半となる8月も参加。麻生自民党副総裁が、抑止力を機能させるには「闘う覚悟が必要だ」と発言したことに抗議し、戦わせない覚悟こそが必要だ」と訴えました。戦争はいったん始まったら容易に終わりません。このことはウクライナ侵略から明らかです。軍事一辺倒の政治を変えましょう。

道警ヤジ排除訴訟「上告断念を！」 排除されたのは知事が守るべき道民

丸山道議は先の第二回定例会一般質問で道警ヤジ排除訴訟について鈴木道知事の姿勢をただしました。

2019年7月の参院選で、安倍晋三首相（当時）の街頭演説に「安倍やめろ」とやじを飛ばした道民が警察官に排除された「道警ヤジ排除訴訟」で札幌高裁は6月22日、女性に55万円を賠償するよう命じた部分は支持し、道の控訴を棄却しました。

高裁判決は「ヤジを飛ばした原告女性について表現の自由や移動・行動の自

由、名誉権が侵害された」と断じました。警察官の行為は違法とした大変重い判決です。

「判決をどう受け止めたのか」と丸山道議の質問に鈴木知事は「道警察において判断・対応してきたもの」と判決内容に全く向き合おうとしない姿勢をあらわにしました。丸山道議は「警察に排除されたのは知事が守るべき道民です。道民が警察により表現の自由を奪われた事に対して知事は何の感情もわかないのですか」と知事を強く批判しました。